

富山高等専門学校	国際ビジネス学専攻	開講年度	平成28年度 (2016年度)
----------	-----------	------	-----------------

学科到達目標

専攻科は、専門専攻科目および専門共通科目による学修を通じて、幅広い豊かな教養と高度な専門知識を有する人材を育成します。

**国際ビジネス学専攻**

本専攻では、経営学に関する高度な専門知識とビジネスに関する実践的な能力を併せ持ち、企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる、環日本海地域ビジネスに関わるコーディネータ、プロジェクトマネージャを育成します。このような人材育成目標に到達するために、所定の単位を修得し、かつ以下のような能力と素養を身につけた学生に修了を認定します。

A国際的な経営感覚と倫理観を持ち、環日本海地域を舞台に活躍できるビジネスパーソンとしての素養

Bビジネスに関する問題の発見・解決に必要な知識と論理的思考力を身につけ、計画的に組織をマネジメントできる能力

C企業・地域社会を取り巻く環境を分析し、それに適合するビジネスモデルを創生できる能力

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分		
					専1年				専2年							
					前		後		前		後					
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
一般	必修	英語特論Ⅰ	0001	学修単位	2	2									モアナヌビル	
一般	必修	英語特論Ⅱ	0002	学修単位	2		2								モアナヌビル	
一般	選択	応用英語	0003	学修単位	2	2									西原 雅博	
専門	必修	技術英語	0004	学修単位	2		2								金川 欣二, 的場 隆一, 由井 四海, 真岩 幸, 保前 友高	
専門	必修	応用数学特論	0005	学修単位	2	2									櫻井 秀人	
専門	必修	応用物理学特論	0006	学修単位	2	2									大竹 由記子	
専門	選択	数学・物理学演習	0007	学修単位	2		2								伊藤 尚	
専門	選択	情報処理学	0008	学修単位	2	2									秋口 俊輔	
専門	選択	衝撃工学	0009	学修単位	2	2									保前 友高	
専門	選択	環境雪氷工学	0010	学修単位	2		2								阿蘇 司	
専門	選択	技術・産業演習	0011	学修単位	2	2									水本 蔵, 塩見 浩介, 宮重 徹也, 梅 伸司	
専門	選択	インターンシップA (国内)	0012	学修単位	2	2									由井 四海, 長谷川 博	
専門	選択	インターンシップB (国外)	0013	学修単位	3	3									古山 彰一, 長谷川 博	
専門	必修	国際ビジネス学特別研究Ⅰ	0014	学修単位	4	4									村山 雅子, 塩見 浩介, 宮重 徹也, 秋原 信吾	
専門	必修	国際ビジネス学特別研究Ⅰ	0015	学修単位	4		4								村山 雅子, 塩見 浩介, 宮重 徹也, 秋原 信吾	
専門	必修	経営学特論Ⅰ	0016	学修単位	2	2									阿蘇 司	
専門	必修	経営学特論Ⅱ	0017	学修単位	2		2								塩見 浩介	
専門	必修	経営管理特論	0018	学修単位	2	2									宮重 徹也	
専門	必修	環日本海ビジネス事情	0019	学修単位	2	2									海老原 毅, 清剛 治	

専門	必修	環日本海ビジネス演習	0020	学修単位	2				2								海老原 毅 清 剛		
専門	必修	国際ビジネス特論	0021	学修単位	2				2									阿蘇 司	
専門	必修	マーケティング特論	0022	学修単位	2				2									阿蘇 司	
専門	必修	現代流通論	0023	学修単位	2	2												阿蘇 司	
専門	必修	商業英語	0024	学修単位	2				2									クーバ ート ット	
専門	必修	経営システム分析論	0025	学修単位	2				2									村山 雅 子	
専門	選択	専門英書講読	0026	学修単位	2				2									阿蘇 司	
専門	必修	経営戦略特論	0027	学修単位	2				2									宮重 徹 也	
専門	選択	地域産業学	0028	学修単位	2				2									伊藤 尚 阿蘇 司	
一般	選択	日本語・日本文学	0027	学修単位	2										2			近藤 周 吾	
一般	選択	地域社会研究	0028	学修単位	2						2							横田 数 弘	
一般	選択	健康科学	0029	学修単位	2										2			大橋 千 里	
一般	選択	産業特論	0030	学修単位	2						2							長谷川 博	
一般	選択	環日本海文化論	0031	学修単位	2										2			宮崎 衣 澄	
専門	必修	技術者倫理・企業倫理	0032	学修単位	2										2			横田 数 弘, 塚 田 章 義弘, 宮重 徹也	
専門	選択	国際関係論	0033	学修単位	2										2			海老原 毅	
専門	選択	オペレーションズ・リサーチ	0034	学修単位	2						2							阿蘇 司	
専門	選択	パラメータ設計	0035	学修単位	2						2							水谷 淳 之介	
専門	選択	生産開発システム	0036	学修単位	2										2			山本 桂 一郎	
専門	選択	港湾実務	0037	学修単位	2						2							岡本 勝 規	
専門	選択	港湾物流	0038	学修単位	2						2							岡本 勝 規	
専門	選択	地球科学概論	0039	学修単位	2										2			福留 研	
専門	必修	国際ビジネス学特別研究 I	0040	学修単位	4								4					村山 雅 子, 塩 見 浩 介, 宮重 徹也, 萩原 信吾	
専門	必修	国際ビジネス学特別研究 II	0041	学修単位	4										4			村山 雅 子, 塩 見 浩 介, 宮重 徹也, 萩原 信吾	
専門	必修	数理意思決定論	0042	学修単位	2						2							萩原 信 吾	
専門	必修	商業英語	0043	学修単位	2										2			クーバ ート ット	
専門	選択	ビジネス会計論	0044	学修単位	2						2							塩見 浩 介	
専門	選択	応用情報処理論	0045	学修単位	2						2							萩原 信 吾	
専門	選択	環境マーケティング論	0046	学修単位	2										2			阿蘇 司	
専門	選択	経営システム科学論	0047	学修単位	2										2			村山 雅 子	

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	応用英語
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	One Hundred Exercises—Grammar for Advanced Students of English as a Second Language, Vol.2, A. Dart, M. Nishihara				
担当教員	西原 雅博				
<b>到達目標</b>					
1. 文法規則を正確に理解し運用して、自分の言いたい内容を正確な英文で書き表現することができる。 2. ピリオド、コンマ、セミコロン等のパンクチュエーションと接続詞を意図的に使用して、自分のアイデアを効果的に書き表現することができる。 3. フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解することができ、自分の意図する形式を正確に用いることができる。					
<b>ルーブリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	文法規則を正確に理解し運用して、自分の言いたい内容を正確な英文で書き表現することができる。	文法規則を理解してこれを運用して英文を綴ることができる。	文法規則の理解が不十分であり、その結果正確な英文を書くことができない。		
評価項目2	ピリオド、コンマ、セミコロン等のパンクチュエーションと接続詞を意図的に使用して、自分のアイデアを効果的に書き表現することができる。	ピリオド、コンマ、セミコロンと接続詞を自覚的に使って正確に意図を表現しようと努力することができる。	ピリオド、コンマ、セミコロンや接続詞の使用に関して無自覚である。		
評価項目3	フォーマルな表現、くだけた表現といった言語の社会性について理解することができ、自分の意図する形式を正確に用いることができる。	フォーマルな表現、くだけた表現があることを知って適切に使い分けようとする事ができる。	言語の使用に社会性があることを理解することも、それを適切に使用しようとする事もできない。		
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
<b>教育方法等</b>					
概要	学習目標（授業のねらい） 英語でアブストラクトや論文を作成する表現力、説明力の基礎を身につけるために、慣用的な表現だけでなく、文法規則を正確に使うことで応用的に英文を創る力が必要となる。そのために授業で重点的に扱うのは、動詞の時制の理解と区別、冠詞と前置詞、接続詞といった「機能語」、コンマとセミコロンといったパンクチュエーション、フォーマルな表現・くだけた表現といった規則の運用力に関する内容の上に立って、助動詞、仮定文、不定詞、動名詞といった応用力のある規則を取り上げる。				
授業の進め方・方法	教員単独による講義及び学生の発表・演習を行なう。				
注意点	毎回、解説の理解とそれを使った練習問題からなる8ページ前後の予習が与えられる（別途シラバス参照）。所要時間は約2～3時間。準備をして授業に参加すること。テキストを忘れた場合はその授業は欠課とみなす。				
<b>授業計画</b>					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	法助動詞 should / ought to、及び、 must（推測）	法助動詞 should / ought to、及び、 must（推測）の意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。	
	2週	法助動詞 must（必要・推薦・禁止）、don't have to と mustn't、may（憶測・可能性・申し出）	法助動詞 must（必要・推薦・禁止）、don't have to と mustn'tの意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。		
	3週	have to と may、should、must の組み合わせ表現、may、can、の丁寧な申し出、can と could、be able to に関して、互いの意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。	have to と may、should、must の組み合わせ表現、may、can、の丁寧な申し出、can と could、be able to に関して、互いの意味の区別ができ、対話の中で意味に応じた正しい形式を作ることができる。		
	4週	could have、法助動詞のまとめ（1）、need と dare	それまでの法助動詞を対象として、文脈に応じた正しい法助動詞の形式を作ることができる。		
	5週	had better (best)、would like、would rather、would sooner、be supposed to、have got、have got to	had better (best)、would like、would rather、would sooner、be supposed to、have got、have got to に関して、互いの意味の違いを理解でき、対話の意味に応じた形式をつくる事ができる。		
	6週	法助動詞のまとめ（2）、実現可能な仮定文、条件節の中の should	それまでの法助動詞を対象として、文脈に応じた正しい法助動詞の形式を作ることができる。実現可能な条件文の動詞の形式をつくる事ができる。		
	7週	現在の事実即した条件文、when の意味の if、現在の事実と反する条件を仮定する、過去の事実と反する条件を仮定する	when と交換可能な if の用法を判断することができる。また、実現可能な仮定文に対して、現在の事実と反する条件を仮定した文、及び、過去の事実と反する条件を仮定した文との判断をすることができ、それぞれに応じた動詞句をつくる事ができる。		
	8週	過去の事実・習慣（when の意味の if、used to、would）、条件文のまとめ、意見節 as if、as though	過去の事実・習慣（when の意味の if、used to、would）の意味を理解し、文脈の中で適切な動詞句を作ることができる。意見節 as if、as though に関して、文脈に対応した動詞句を作ることができる。		
	2ndQ	9週	不定詞（単純不定詞と完了不定詞、主語としての不定詞、先行の "it"）	単純不定詞と完了不定詞の判断ができる。主語としての不定詞を使った英文をつくる事ができ、これを先行の "it" を使って書く事ができる。	
	10週	主語としての動名詞（句）、動詞 go の後に続く動名詞、その他の動詞に続く動名詞表現	動名詞の用法のうち、主語として、go などの動詞の後ろにくる形式を理解し、文脈に応じた形式をつくる事ができる。		
	11週	動詞の目的語としての動名詞、動名詞・不定詞のいずれも目的語とする動詞	動名詞のみを後続させる動詞との用法を文脈の中で使うことができる。		

	12週	前置詞の目的語としての動名詞（①動詞+前置詞+動名詞、②形容詞+前置詞+動名詞）	前置詞に後続する用法としての動名詞を文脈に応じて正しい形式に変えて使うことができる。
	13週	前置詞の目的語としての動名詞（③名詞+前置詞+動名詞）、知覚動詞に続く動名詞他	知覚動詞に後続する動名詞の用法を文脈に応じて正しく使うことができる。
	14週	完了動名詞	単純動名詞と完了動名詞の判断ができ、文脈の中で正しい形式をつくることができる。
	15週	期末試験	第9週～14週までの内容の理解度を測るために、期末試験を行なう。
	16週	答案返却、解説、授業アンケート	

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	情報処理学		
<b>科目基礎情報</b>							
科目番号	0008		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	特に指定しない。授業中に資料または教員作成のプリントを配布する。						
担当教員	秋口 俊輔						
<b>到達目標</b>							
1. Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができる。 2. VBAを用いてマクロを作成することができる。 3. 感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて説明できる。							
<b>ルーブリック</b>							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関するより専門的な分析を行うことができる。	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができる。	Excelを用いてデータ処理を行い、その結果に関する分析を行うことができない。				
評価項目2	VBAを用いて複雑なマクロを作成することができる。	VBAを用いてマクロを作成することができる。	VBAを用いてマクロを作成することができない。				
評価項目3	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて十分に説明できる。	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについておおよそ説明できる。	感性的な情報処理に関して、その特徴・方法論などについて説明できない。				
<b>学科の到達目標項目との関係</b>							
<b>教育方法等</b>							
概要	取り扱うべき情報が多様にわたる今日では、様々な情報を適切に処理する技能が必要となる。本講義では、様々なデータ計測や制御に必要な技能の習得を目標とし、表計算ソフトウェアを用いたグラフ表示や統計解析などによりデータ処理を行う。また、感性的な情報処理を行うための前段階として、コンピュータ上で曖昧な情報を取り扱うための一手法についても学習する。						
授業の進め方・方法	・講義を主とし、適時演習問題を織り交ぜて実施する。						
注意点	・理解を深めるため、適宜演習を行う。						
<b>授業計画</b>							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	イントロダクション	本講義科目における学習内容、方法を説明できる。			
		2週	コンピュータを用いた情報処理 (1)	Excelを用いた簡単なデータ処理ができる。			
		3週	コンピュータを用いた情報処理 (1)	Excelを用いた簡単なデータ処理の結果を分析することができる。			
		4週	コンピュータを用いた情報処理 (2)	プログラミング言語を用いて簡単な情報処理プログラムを作成することができる。			
		5週	コンピュータを用いた情報処理 (2)	作成した情報処理プログラムで出力された結果をExcelを用いて解析することができる。			
		6週	コンピュータを用いた情報処理 (3)	マクロとは何かについて説明できる。			
		7週	コンピュータを用いた情報処理 (3)	VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。			
	2ndQ	8週	コンピュータを用いた情報処理 (3)	VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。			
		9週	コンピュータを用いた情報処理 (3)	VBAを用いたマクロ作成演習にて課題を達成できる。			
		10週	演習	プログラミング言語・excelを用いたデータ処理、処理結果の分析に関する演習課題を達成できる。			
		11週	感性的な情報処理手法 (1)	人間の持つ曖昧さをコンピュータ上で取り扱う上で注意すべき事項について説明できる。			
		12週	感性的な情報処理手法 (2)	コンピュータ上で曖昧さを含んだ情報を取り扱う手法について説明できる。			
		13週	感性的な情報処理手法 (3)	コンピュータを用いた感性的な情報処理について説明できる。			
		14週	演習	感性的な情報処理手法を用いた情報処理、処理結果の分析に関する演習課題を達成できる。			
		15週	期末試験	期末試験			
16週	期末試験の解答	試験返却					
<b>モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標</b>							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
<b>評価割合</b>							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	インターンシップ A (国内)	
科目基礎情報							
科目番号	0012		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	専攻科インターンシップ実施要項						
担当教員	由井 四海,長谷川 博						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	学習目標(授業の狙い) 技術者として国際的視点で事象を捉え続ける能力を身に付け、母国だけでなく地球にやさしい視点で判断し、説明できる能力を養うことを目標とする。そのために2週間以上の日本企業研修を行う。						
授業の進め方・方法	プレゼンテーションとレポートにより評価する。						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	インターンシップ先の決定			履修希望学生は、受け入れ先と相談の上、担任の承認を得た後、申請書にて申請し、許可を得る。	
		2週	準備			必ず学生教育研究災害保険（インターンシップコース）に加入すること。	
		3週	準備			指定された書式のインターンシップ申込書、誓約書を担任に提出すること。	
		4週	インターンシップ期間中			学生はインターンシップ業務に従事し、所定の書式に毎日の業務記録を作成する。また、業務指導担当者の所見をいただくこと。	
		5週	インターンシップ終了後			インターンシップ業務終了時には報告書を作成する。そして、担任に提出する。	
		6週					
	2ndQ	7週					
		8週					
		9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	50	0	0	50	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究 I		
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		1年目における論文作成の流れと注意点に関する説明が理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	2ndQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第1回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究 I		
科目基礎情報							
科目番号	0015		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		1年後期における論文作成の流れと注意点に関する説明を理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	4thQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第2回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0



富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	経営学特論Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	塩見 浩介						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	経営管理特論		
科目基礎情報							
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	村田和博「経営学」						
担当教員	宮重 徹也						
到達目標							
経営管理論の理論体系が理解でき、実践に適用できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	経営管理論の理論体系が理解でき、実践に適用できる。		経営管理論の理論体系が理解できる。		経営管理論の理論体系が理解できない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義では、経営管理論の理論体系の習得と実践能力の学習を目的とした講義を行う。						
授業の進め方・方法	講義形式にて実施するが、学生による報告も行う。						
注意点							
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション		本講義の概要を理解できる。		
		2週	古典的管理の概念		古典的管理論の概念について理解できる。		
		3週	古典的管理の事例分析 (1)		古典的管理論の事例について理解できる。		
		4週	古典的管理の事例分析 (2)		古典的管理論の事例について理解できる。		
		5週	モチベーションの概念		モチベーションの概念について理解できる。		
		6週	モチベーションの事例分析 (1)		モチベーションの事例について理解できる。		
		7週	モチベーションの事例分析 (2)		モチベーションの事例について理解できる。		
	2ndQ	8週	インセンティブの概念		インセンティブの概念について理解できる。		
		9週	インセンティブの事例分析 (1)		インセンティブの事例について理解できる。		
		10週	インセンティブの事例分析 (2)		インセンティブの事例について理解できる。		
		11週	リーダーシップの概念		リーダーシップの概念について理解できる。		
		12週	リーダーシップの事例分析 (1)		リーダーシップの事例について理解できる。		
		13週	リーダーシップの事例分析 (2)		リーダーシップの事例について理解できる。		
		14週	企業倫理の概念		企業倫理の概念について理解できる。		
		15週	期末試験				
16週	答案返却、解説、授業アンケート						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	経営戦略特論		
科目基礎情報								
科目番号	0027		科目区分	専門 / 必修				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専1				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	ジェームズ・コリンズ他『ビジョナリー・カンパニー』日経BP社、山本七平『日本はなぜ敗れるのか』							
担当教員	宮重 徹也							
到達目標								
経営戦略の基礎的理論を理解できる。 経営学書の輪読を通して、その内容を報告できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	経営戦略の基礎的理論を十分に理解できる。		経営戦略の基礎的理論を一部理解できる。		経営戦略の基礎的理論を理解できない。			
評価項目2	経営学書の内容を十分に報告できる。		経営学書の内容を不十分ながらも報告できる。		経営学書の内容を報告できない。			
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	経営戦略論の基礎的な理論について理解することを目標とした授業を実施する。 また、経営学書の輪読を通して、広く経営学や企業に対する理解を深める。							
授業の進め方・方法	講義形式にて実施するが、学生による報告も行う。							
注意点								
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション			授業の進め方について理解できる。		
		2週	経営学書の概要紹介・企業の目的			経営学書の概要が理解できる。また、企業の目的が理解できる。		
		3週	経営学書の報告・企業ドメイン (1)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業ドメインの定義と機能について理解できる。		
		4週	経営学書の報告・企業ドメイン (2)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業ドメインの具体的な事例と発展について理解できる。		
		5週	経営学書の報告・成長戦略 (1)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、組織学習と市場シェアの拡大に基づく成長戦略について理解できる。		
		6週	経営学書の報告・成長戦略 (2)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、成長戦略のタイプと多角化について理解できる。		
		7週	経営学書の報告・競争戦略 (1)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、競争戦略や競争優位の概念について理解できる。		
	8週	経営学書の報告・競争戦略 (2)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、産業組織論に基づく競争戦略について理解できる。			
	4thQ	9週	経営学書の報告・競争戦略 (3)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、源論・能力論に基づく競争戦略について理解できる。		
		10週	経営学書の報告・経営組織 (1)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営組織の構造について理解できる。		
		11週	経営学書の報告・経営組織 (2)			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営組織の発展について理解できる。		
		12週	経営学書の報告・経営管理			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、経営戦略と経営組織の管理について理解できる。		
		13週	経営学書の報告・企業文化			報告者は経営学書の内容を報告できる。また、企業文化について理解できる。		
		14週	経営学書のまとめ・企業倫理			経営学書の内容が理解できる。また、企業倫理について理解できる。		
		15週	期末試験					
16週		答案返却、解説、授業アンケート						
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100	
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	日本語・日本文学			
<b>科目基礎情報</b>								
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択				
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	プリントを配布する							
担当教員	近藤 周吾							
<b>到達目標</b>								
学習教育目標D1 JABEE基準1(1)d, e, f 独創とは何か? 模倣との違いは? この講義では、主として日本近代文学を題材としながら、広く文学および文化理解の基礎を構築する。自国の文化を深く理解すると同時に、異文化理解の助けとする。(d)最先端の文化理論を参照することで、先行する技術や情報を再編しながら独創的な成果を産み出すためのノウハウ・ノウハウを学ぶ。(e)口頭発表の機会を設け、プレゼンテーションの技能を習得する。平時のミニ・レポートや最終時のレポートにより、論理的な記述力も身につける。(f)								
<b>ルーブリック</b>								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	先行技術・情報を再編する原理を深く理解でき、活用できる。		先行技術・情報を再編する原理が理解できる。		先行技術・情報を再編する原理が理解できない。			
評価項目2	自ら調査した結果を効果的な方法で発表できる。		自ら調査した結果を発表できる。		自ら調査した結果を発表できない。			
評価項目3	日本の文学や文化について深く理解し、外国人と意見交換できるレベルに到達する。		日本の文学や文化について理解し、外国人と意見交換できる素地がある。		日本の文学や文化について理解できず、外国人と意見交換できるレベルにない。			
<b>学科の到達目標項目との関係</b>								
<b>教育方法等</b>								
概要	学習教育目標D1 JABEE基準1(1)d, e, f 独創とは何か? 模倣との違いは? この講義では、主として日本近代文学を題材としながら、広く文学および文化理解の基礎を構築する。自国の文化を深く理解すると同時に、異文化理解の助けとする。(d)最先端の文化理論を参照することで、先行する技術や情報を再編しながら独創的な成果を産み出すためのノウハウ・ノウハウを学ぶ。(e)口頭発表の機会を設け、プレゼンテーションの技能を習得する。平時のミニ・レポートや最終時のレポートにより、論理的な記述力も身につける。(f)							
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、途中でプレゼンテーション実習を挿入。また、毎時ミニ・レポートを課す。							
注意点	「読む・書く・話す・聞く」のいわゆる4技能を重視するので、積極的な授業参加を心がけてほしい。							
<b>授業計画</b>								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	オリエンテーション			授業内容の概要を理解する。		
		2週	文化理論概説1			間テキスト性理論の概略を理解する。		
		3週	文化理論概説2			間テキスト性理論の概略を理解する。		
		4週	文化理論概説3			間テキスト性理論の概略を理解する。		
		5週	近代文学研究1 ～太宰治「走れメロス」論1～			太宰治「走れメロス」の生成過程の調査を通じて「独創とは何か」「模倣とは何か」といった問いを考究する。		
		6週	近代文学研究1 ～太宰治「走れメロス」論2～			太宰治「走れメロス」の生成過程の調査を通じて「独創とは何か」「模倣とは何か」といった問いを考究する。		
		7週	近代文学研究1 ～太宰治「走れメロス」論3～			太宰治「走れメロス」の生成過程の調査を通じて「独創とは何か」「模倣とは何か」といった問いを考究する。		
	4thQ	8週	演習1			受講者自身の問題意識に発する口頭発表および質疑応答を行う。		
		9週	演習2			受講者自身の問題意識に発する口頭発表および質疑応答を行う。		
		10週	演習3			受講者自身の問題意識に発する口頭発表および質疑応答を行う。		
		11週	近代文学研究4 ～ピグマリオンのお話学1～			古今東西の文学からピグマリオン・コンプレックスの事例を採集し、考察する。		
		12週	近代文学研究5 ～ピグマリオンのお話学2～			谷崎潤一郎『痴人の愛』の分析を通じて、先行テキスト受容のあり方を考察する。		
		13週	近代文学研究6 ～ピグマリオンのお話学3～			文学作品に限らず、映画や演劇まで視野に収めながら現代文化の可能性を探究する。		
		14週	レポートの書き方					
		15週	レポート作成					
16週	期末試験							
<b>モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標</b>								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
<b>評価割合</b>								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	75	25	0	0	0	0	100	
基礎的能力	25	25	0	0	0	0	50	
専門的能力	25	0	0	0	0	0	25	
分野横断的能力	25	0	0	0	0	0	25	

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	地球科学概論		
科目基礎情報							
科目番号	0039		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	福留 研一						
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> <li>地球流体力学に関する基礎的な式を理解する。</li> <li>地球流体力学の基礎式により簡単な現象を表現できる。</li> <li>上記の考察により地球流体の性質を理解する。</li> </ul>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	地球流体の概念を理解し解説できる		地球流体の概念を理解できる		地球流体の概念を理解できない		
評価項目2	地球流体力学の基礎式を用いてより複雑な現象を表現できる		地球流体力学の基礎式を用いて簡単な現象を表現できる		地球流体力学の基礎式を用いて簡単な現象を表現できない		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	(学習教育目標) B1 (評価基準)c 本講義では大気や海洋で起こる現象を、地球流体力学の基礎的な手法(現象の定式化など)により学び、船舶の運行や漁業、さらに日常生活に対する気候の影響についての基礎的理解を深めることを目的とする。						
授業の進め方・方法	講義およびレポート						
注意点	<p>これまで学習した、流体力学、物理(力学)、数学で学習した解析の基礎を理解しておくこと。特に、基礎的な微分・積分は覚えておくこと。この教科の内容が理解できない場合、簡単なことでもいいので、疑問を感じたら質問するように心がける。</p> <p>また、学生の理解度を検討しながら課題内容を決めたい。</p> <p>評価が60点に満たない者は追認試験願の提出により追認プログラムを受けることができる。追認プログラムの結果、単位の修得が認められた者にあたっては、その評価を60点とする。なお、追認プログラムは、不認定となった内容によって異なるので確認すること。</p> <p>授業計画は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。</p>						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 海洋・気象	地球流体力学の考え方、海洋・気象の特性について理解する			
		2週	基礎方程式(1)	連続の式、運動方程式などの導出を理解する			
		3週	基礎方程式(2)	熱塩分輸送式などの導出を理解する			
		4週	基礎方程式(3)	乱流、運動方程式の近似、ロスビー数について理解する			
		5週	大気・海洋間における境界条件	太陽放射、熱バランス、塩分バランス、運動量バランスについて理解する			
		6週	地衡流(1)	地衡流バランス、スベルドラップの関係について理解する			
		7週	地衡流(2)	順圧流について理解する			
		8週	中間テスト	これまでのまとめ			
	4thQ	9週	惑星境界層(1)	境界層の基礎方程式、大気と海洋の境界層について理解する			
		10週	惑星境界層(2)	海底境界層、エクマン輸送について理解する			
		11週	順圧海洋循環(1)	エクマンバンピングについて理解する			
		12週	順圧海洋循環(2)	西岸境界流について理解する			
		13週	傾圧海洋循環(1)	圧力勾配、密度・水温・塩分の関係について理解する			
		14週	傾圧海洋循環(2)	水温・塩分場における地衡流速度、海洋渦、ロスビー波などのその他の現象について理解する			
		15週	期末試験	これまでのまとめ			
		16週	成績評価・確認 授業評価アンケート				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	60	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	20	20
専門的能力	0	40	0	0	0	20	60
分野横断的能力	0	20	0	0	0	0	20

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究 I		
科目基礎情報							
科目番号	0040		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス		1年目における論文作成の流れと注意点に関する説明が理解できる。		
		2週	研究		論文作成ができる。		
		3週	研究		論文作成ができる。		
		4週	研究		論文作成ができる。		
		5週	研究		論文作成ができる。		
		6週	研究		論文作成ができる。		
		7週	研究		論文作成ができる。		
		8週	研究		論文作成ができる。		
	2ndQ	9週	研究		論文作成ができる。		
		10週	研究		論文作成ができる。		
		11週	研究		論文作成ができる。		
		12週	研究		論文作成ができる。		
		13週	研究		論文作成ができる。		
		14週	研究		論文作成ができる。		
		15週	第3回特別研究発表会		研究報告ができる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	国際ビジネス学特別研究Ⅱ		
科目基礎情報							
科目番号	0041		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 4			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	4			
教科書/教材							
担当教員	村山 雅子,塩見 浩介,宮重 徹也,萩原 信吾						
到達目標							
1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得で論理的思考力と経営学的分析力を育成し、学会で評価されるレベルの研究ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	学会で評価されるレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができる		一定水準のレベルの研究ができない		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1・2年を通して同一の研究テーマについて、文献調査、フィールドワークなどの調査手法を修得できる。						
授業の進め方・方法	各研究室において実施						
注意点							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	1年後期における論文作成の流れと注意点に関する説明を理解できる。			
		2週	研究	論文作成ができる。			
		3週	研究	論文作成ができる。			
		4週	研究	論文作成ができる。			
		5週	研究	論文作成ができる。			
		6週	研究	論文作成ができる。			
		7週	研究	論文作成ができる。			
		8週	研究	論文作成ができる。			
	4thQ	9週	研究	論文作成ができる。			
		10週	研究	論文作成ができる。			
		11週	研究	論文作成ができる。			
		12週	研究	論文作成ができる。			
		13週	研究	論文作成ができる。			
		14週	研究	論文作成ができる。			
		15週	第4回特別研究発表会	研究報告ができる。			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	特別研究発表	特別研究論文	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

富山高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	ビジネス会計論		
科目基礎情報							
科目番号	0044		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	国際ビジネス学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	塩見 浩介						
到達目標							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要							
授業の進め方・方法							
注意点							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0